

世界の印刷メディアの教育と研究*1

国際印刷大学校 学長
工学博士 木下堯博*2

「ニュートン」(2004年11月号)に本年度のノーベル賞候補79名のうち、日本国際賞を受賞した東京大学名誉教授本多健一、藤嶋 昭両先生の研究業績が化学賞部門のトップで紹介されていた。即ち、二酸化チタンの紫外線照射により水を水素と酸素に分解出来ることを発見し、「本多・藤嶋効果」で世界的に注目された。この応用範囲は殺菌効果、汚れ分解、水の浄化など環境問題に貢献している。両先生は光反応を幅広く研究され、指導者であった故菊池真一先生はハロゲン化銀の光反応で著名であり、「写真化学」など多くの研究業績を残している。著者は博士論文の指導などでいろいろお世話になり、もしも、受賞となれば世界的に写真や印刷の関連分野で初めてのノーベル賞となる。

一方、印刷メディアの教育・研究ではアメリカのロチェスター工科大学、イギリスのロンドン印刷大学、ドイツのダルムシュタット工科大学など歴史と伝統のある大学の他に、ITの進展により印刷メディアの教育研究する大学が増大してきた。

drupa2004で初めて出展したドイツのブッパータル大学はヨーロッパの印刷メディア系14大学の教育コンテンツに関する会議を会期中開催した。2004年5月1日からのEU拡大により、オブザーバーとしても多くの大学が参加し、日進月歩する印刷メディアのカリキュラムの検討が行われ、注目を集めた。

IPEX2002ではVision21の会議と展示が行われ、ロンドン印刷大学が中心となり、ウエールズ大学、ネピア大学など19の大学と研究機関がそれぞれ成果を発表した。大学と産業界との交流の場がもたれたことはprint01の場合とほぼ同様な企画でもあり、大学の教育・研究に良い影響を与えるものと考えられる。印刷教科のe-ラーニングはロンドン印刷大学が各地の印刷メディア系大学と提携し、開発を行っている。また、それらの成果はインドや中近東の大学にも提供していた。

print01ではピッパバーグ大学と交流し、printが開催されるたびにシカゴのイリノイ大学、キングケネディー大学、ロスアンジェルステクニカル大学などを訪問しているが、印象として実学的要素が強かった。

ロシア、東欧、北欧、中国の印刷メディア系大学の中心であるロシア印刷大学では毎年、印刷教育研究発表会を開催している。韓国の中部大学校で行われた韓国印刷学会の創立10周年記念講演会でロシア印刷大学のチガネンコ学長と著者が招待され記念講演を行った。韓国では釜慶大学校が1978年に前身の釜山工業専門学校として設立されたが、本年9月、東国大学校に印刷工学科の大学院修士課程がソウルの印刷工業組合の要望で開設された。夜間の3年制で企業に勤務している従業員を対象にしている。

中国の北京印刷学院(大学)は隣接地に中国印刷博物館を設立し、新しい技術導入は主

としてアメリカ、上海出版印刷高等専科学校はイタリアより招聘していた。

台湾の中国文化大学、新設の世新大学はアメリカ、イギリス、日本と交流し、研究成果を挙げてきている。

日本では印刷メディア系の大学がアメリカ200校、イギリス38校(いずれも短大、専門学校を含む)と比較し極端に少ないことなどから、東京グラフィックサービス工業会などが東京都に対して印刷学部新設の要望を出したが認可されなかった。

しかし印刷に関連する分野で東京農工大学にセキュリティー学科、明海大学でホスピタリ・ツリズム学科など設立の動きがある。

国際印刷大学校(理事長石川 忠、富士精版印刷㈱会長)は drupa2000 の6月に設立され、インターネットを中心としたバーチャル大学で本年、5年目となる。理事会(経営)と教授会(教学)の両面から運営され、現在では客員教授スタッフ17名で36学科目を開講している。昨年、全国中小企業団体中央会から助成により「印刷産業における電子商取引の e-ラーニング」の講座を開講し、多くの受講者があった。本年もコンテンツを一部改正し、継続して行っている。研究分野では「世界の印刷博物館」「高濃度印刷」「色再現」「CTP」「e-ラーニング」「天草版」などで2005年2月2日のPAGE2005にて一部口頭発表予定である。それらの成果は論文として国際印刷大学校研究報告やHPなどに掲載されている。HP(<http://www.media-line.or.jp/igu>)

文部科学省の知的クラスターや経済産業省の産業クラスターの産学官連携による国家クラスター計画と成果は日本の産業の活性化と再生に繋がるであろう。全国の印刷及び関連企業も各地のクラスター運営に積極的に参加することが必要である。

世界はインターネットにより結ばれ、瞬時に情報は駆け巡り、技術革新のテンポは速く教育と研究は基本的にオンデマンド対応になりつつある。

国家、企業、大学にもそれぞれ独自のDNAがあり、情報、環境、ナノテクノ、バイオ、印刷メディアなどの研究・教育は世界各国で得意分野を分担すれば、「最適環境での人類生存」のための成果が期待される。

(2004年10月23日記)

* 1 日本印刷新聞2004年11月13日刊行

* 2 国際印刷大学校事務局; <http://www.media-line.or.jp/igu>

〒189-0002 東京都東村山市青葉町2-29-12

TEL 042-395-5561、FAX 042-392-8216

E-Mail; kinoaki@mpd.biglobe.ne.jp

自 宅 〒811-4163 宗像市自由ヶ丘10-10-8

電話0940-33-2889